

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
プロッサムジュニア上越春日山教室(児童発達支援)		令和 7 年 4 月 15 日			
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%			
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%			
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	80%	20%	・段差など移動の際、支援が必要な利用者様がいるのでその場合は見合った支援をしています。 段差を有効利用し、トレーニングの一環としていることもある。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		・常に清潔を心がけている。 活動に合わせて机や椅子、遊具などを移動し、のびのび活動できるように環境設定している。	
業務改善	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%			
	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%			
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	90%	10%		定期的な面談で要望、意向を聞いています。 受け入れできるものは支援計画に盛り込んだり対応してきました。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	90%	10%	・できる範囲の中で改善につながるようすすめているが、時間に余裕があれば出された意見をもっと支援につなげたり形にしていきたいと感じる。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	70%	20%	・公には評価という形を受けていないが、アドバイスなど受けることはあり、改善につながるよう努めている。 公に外部評価を受けることは、支援の質の向上にもつながると思うので行ってみるのも良いのでは。	第三者に外部評価を受けられるよう検討していきます。 アドバイスが受けやすく、相談しやすい流れや環境にあるので受けた相談やアドバイス等は職員全体にも周知、報告していきます。
適切な支援の提供	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	100%			
	11 支援プログラムを作成、公表に向けて動いているか。	100%			
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画（個別支援計画）を作成しているか。	100%			
	13 児童発達支援計画（個別支援計画）を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%			
	14 児童発達支援計画（個別支援計画）が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%			
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	90%	10%		職員全体で同じ支援が継続できるようご利用者様のアセスメント等を丁寧に行っていきます。
	16 児童発達支援計画（個別支援計画）には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%			
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		・週ごとに活動を考えている	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画（個別支援計画）を作成し、支援が行われているか。	100%			
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%			
	21 支援終了後には、職員間で行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	90%	10%	・支援のその日や直後でないこともあるが、支援記録を書くタイミングに合わせ、振り返りや共有を行っている。	今後も支援記録を記入するときや集団、個別療育内容を検討する際に振り返りや共有を行っています。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%			
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画（個別支援計画）の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%			
	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%			
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	90%	10%		必要な場合には各関係機関が集まり、連携が取れるようにしています。 特に保育、教育の現場との連携は取りやすくなっています。

関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	90%	10%		保育所や園の様子や目標等を確認し、情報共有しながら療育を行っています。 穏やかに移行できるよう努めています。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	90%	10%		就学のタイミングとモニタリング会議のタイミングを合わせて情報共有を行っています。
	28	管理者・児童発達支援管理責任者が地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設け、職員間で情報を共有しているか。	90%	10%		こども発達支援センターの会議や研修会に参加するなど情報共有をしています。
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	60%	40%	・利用者様は保育園や認定こども園、幼稚園に在園しているため、とくべつな機会を設ける必要性は感じていない。しかし、地域の活動への参加は経験値を上げていくために、今後も参加していきたい。	地域のイベントに積極的に参加するようにしています。その場で地域のこどもたちとの交流ができてはいません今後も積極的に参加し交流、かかわりの機会が持てるように職員全体でアイデアを出して工夫していきましょう。
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	70%	30%	・現在ベアレントトレーニングが必要な保護者様がいないと感じているため、行ったことはない。 アドバイスや相談のみ。	
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ベアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%			必要な保護者様には情報共有ができるように研修を計画していきます。 ベアレントトレーニングを行うことだけが家族支援というわけではないと思います。土江幅広く、家族支援として対応するために、親子活動や定期的な面談に取り組んでいます。
保護者への説明等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			
	33	児童発達支援計画（個別支援計画）を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%			
	34	「児童発達支援計画（個別支援計画）」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画（個別支援計画）の同意を得ているか。	90%	10%		面談、モニタリング等で個別支援計画の内容に触れ、説明しています。
	35	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%			
	36	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	90%	10%	・昨年度から親子活動や作品展などを開催	
	37	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			
	38	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%			
	39	個人情報取り扱いに十分留意しているか。	100%			
	40	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%			
	41	事業所の行事に地域住民を招待する、地域のイベントに参加する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%		・地域のイベントなどに参加	
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	80%	20%	・児童発達の子どもたちとはまだ訓練をしていないと思うので、実施したい	BCPやマニュアルに関しては策定済みですが、見直しや新たに盛り込む内容を確認し、職員や保護者様に周知していきます。
	43	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	90%	10%	・BCPを把握していなかったので、勉強したい ・訓練は行っているが周知が甘い。	同時に災害等に備え、現場では定期的な訓練を引き続き行っています。
	44	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%			
	45	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%			
	46	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%		・安全管理がされた中で支援が行われていると思うが、安全計画を確認したい	
	47	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	90%	10%	・まだ周知が甘い。	今年度、計画が不十分と感ずることがあったため、見直しや内容の確認をし、新たな職員、保護者様へ周知していきます。
	48	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%			
	49	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%			
	50	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画（個別支援計画）に記載しているか。	90%	10%		虐待や身体拘束の研修の際に、やむを得ず行う場面やご利用者様について職員間で確認し合いながら必要な場合には個別支援計画にも盛り込んでいきます。